

要 旨

「だけに」「ばかりに」の接続助詞的用法について、前件Aと後件Bのつながりから細かく分類し、相違を考えた。「だけに」は、ABのつながりが当然か予想外か、Aという状況によりBが強化されるか、ABの内容が対照的か、などによって①「…だからさすがに・やはり」②「…だからいっそう」③「…だからかえって」の大きく三つに分けられ、さらに細分できる。「ばかりに」は、後件Bが好ましくない事柄かどうかで二分できる。また相違を見ると、「だけに」は「だけ」の程度の意味を、「ばかりに」は限定の意味を表しており、ABを結び付ける際には、「だけに」は聞き手の共感（了解）に基づき、「ばかりに」は話し手の主観に基づく。

[キーワード] 聞き手の共感（了解）／話し手の主観／限定／程度

はじめに

「だけに」「ばかりに」は、副助詞の「だけ」「ばかり」に「に」のついた連語（いわゆる複合助詞）だが、ともに接続助詞的な働きがあると言われる^{注1}。「だけ」「ばかり」は、限定や程度を表す副助詞として共通の意味要素を持ち、時に同じような文内容に用いられることがあるが、「だけに」「ばかりに」は、ともに原因理由を表すとされながら、その意味内容は異なり、二語を入れ替えることができない。これらの意味・用法については「だけ」「ばかり」の研究の一部となっている場合が多い^{注2}が、「だけに」「ばかりに」は、副助詞とは違った接続の働きを持ち、その意味・用法については別に考察されてよいものではないかと思われる。小稿では、「だけに」「ばかりに」の接続助詞的な意味・用法を細かく分析し、相違を考え、そこに反映している「だけ」「ばかり」の意味を見ようとするものである。

1. だけに

1-1. 従来の研究及び辞書の記述に見られる意味・用法

「だけに」の意味は一般に大きく二つに分類されている。『助詞助動詞詳説』

(松村編1969)では

①それにふさわしく

②だからいっそう

と他の語に置き換えて説明されており、森田良行氏は「身分・事情・能力に相応して」という意味を前提に、

・前件で事実を述べ、後件で事実から当然生ずべき結果が述べられる。

「…ナノデ、ナオサラ」「…デアルカラ、ナオノコト」という意味関係

・後件で事実が述べられ、その事実が当然生ずべき理由づけが前件に来る。

「ヤハリ…ダカラ」という意味関係

の二種類に分けている(森田1972)。

『外国人のための基本語用例辞典』(文化庁1990、以下『基本語用例辞典』と略す)のように、「だから、いっそう」の意味だけを取り上げているものもあるが、多くは上記の二分類にほぼ等しい。小稿では、「だけに」の具体的な意味・用法を、用例を基に再検討し、分類を試みる。

1-2. 「だけに」の意味・用法

「だけに」を挟んで前件をA、後件をBとすると、AとBの意味関係から以下に述べるように分類することができる。まず大きく3種にわけ、用例を挙げつつさらに細かく見ていきたい。(用例は先行論文や辞書にあるもの、新聞・雑誌・小説・随筆から拾ったものを使い、適宜出典を文末に示す。出典を記さないものは筆者の作例である。)

[AだけにB]

①Bは、Aならば当然そうなると思われる事柄や状況を示す。また、Bなのは当然Aだからだという裏付けをする。

「…だからさすがに」「…だからやはり」と置き換えられる。

②Bは、Aでなくても成立する(AでなくてもBである)が、Aという条件が加わることで、Bという事柄や状況が強調される。

「…だからいっそう」と置き換えられる。

③Bは、Aから予想されるものとは逆の内容を示す。

「…だからかえって」と置き換えられる。

<分類①>

用例(1) 叔父の妻は、京生れだけに、さすがに美しかったのである。(菊池寛『新今昔物語』)

(2) 上野と云えば、寛永寺の境内であるだけに、あんまり出鱈目な花見の趣向などを持ち込むわけには行かないからであった。(菊池寛『新今昔物語』)

(3) さすが大学の先生(である)だけによく知っている。(奥野1986)

(4) 苦勞だけに人間ができています。(『大辞林』)

(5) 事情が事情だけに、ごく内輪のひそやかな告別式でした。(半藤1989)

(6) 一年の三分の一を写生旅行に費すといわれるほどの勉強家だけに、その下がきの早さは熟練した職人のようであった。(森田1989)

(7) とくに新興国トルコとは、この民族がビザンチン帝国を滅ぼすよりずっと前から接触があったのである。それだけに、トルコ語を母国語同様に話せるのはもちろん、同僚の間では、隠れた「トルコ通」として知られてもいた。(塩野七生『サイレント・マイノリティ』)

(8) …「法を破るのは王国創立のため、その他はなにであれ、法と正義は守るものだ」という一句を好んで口にしていたというカエサルだけに、むやみやたらと法を破って面白い、ロマンティックな反体制主義者ではない。(塩野七生『サイレント・マイノリティ』)

(9) こういうヒントは突然湧いたものだけに、すぐ記憶からうすれるということが非常に多く、あとで考えても、一体あれは何だったかなと、思い出そうとしてもでてこないことがあるほどです。(久野1983)

(10) その事件があっただけに、いくら宮腹と云っても、兵部大輔づれの娘との話は出来なかったのである。(菊池寛『新今昔物語』)

(11) 前回失敗しているだけに、すぐには承諾しかねた。

(12) 相手が善意で申し出てくれただけにはっきりとは断りにくい。

上の用例はさらに(ア)(1)～(5)、(イ)(6)～(9)、(ウ)(10)～(12)に分けられる。

(ア)は、「AならばB」という結び付きの背景に世間一般の常識・通念が

あるものである^{注3}。例えば(1)の場合、京生れの女性は美しいという当時の社会の通念があり、(2)の場合、寛永寺の境内では出鱈目な花見の趣向は出来ないという世間一般の常識がある。(3)(4)も同様に「AであるものはBであるものだ」という通念が頭にある。これらは、(1)(3)(4)のように世間の評価に照らした賞賛になるものもあれば、(2)のように一般常識に規制されてしまうものもある。

また、(5)のように「N(名詞)がNだけに」の形で、「こういうNのときにBになるのはやむを得ないこと」を、聞き手に暗黙のうちに分かってもらおうとするものもある。世間一般の常識とまでは至らないが、話し手と聞き手の二人以上の共通認識が必要となる。例えば「場所が場所だけに、ついリラックスしてしまった」「相手が相手だけに油断出来ない」などいろいろな言い方ができるが、いずれも話し手と聞き手との共通理解を前提としている。

(イ)は、社会の通念というわけではないが、Aならば当然Bであることを、話し手が判断して結び付けるものである。この話し手の判断は常識的なもので、一般常識の枠内にある。とくに(8)(9)は、AとBの性質・内容が一致しているもので、(8)は「カエサル」の日頃の言動(=A)と性格(=B)が、(9)は突然湧き(=A)すぐ消える(=B)という「ヒント」の性質が同一の内容としてイコールで結ばれる関係にある。

(ウ)は、「AでなければBでなかったかもしれないのだが、Aという理由のために当然Bになってしまう」という意味合いのものである。ある事柄がAという事情のためにすんなりといかなくなる、Aがある事柄の進捗の妨げとなる場合である。(10)は、「その事件」がなかったら娘との結婚話を打ち明けられたかもしれないのに、「その事件があった」ために、当然言い出せなくなってしまったのであり、(11)は、「前回失敗している」ために当然「すぐには承諾」できないのである。(12)も同様に考えられる。このとき、Aならば当然Bであるという筋道でつなげるのは話し手の判断であるが、背後に世間一般の常識的考えがあると考えられる。なお、(ア)(イ)が「～にふさわしく」と言い換えることもできるのに対して、(ウ)は「～にふさわしく」と言い換える和不自然になる。(ウ)が「Bになってしまう」というやむを得ない気持ちを表していることと、「ふさわしい」という語があまりマイナスの要素を表さないことに関係があるのだろうか。

また、分類①は文中で「さすがに」という語が伴われることがある。「さす

がに」は、前述の内容が一般的に予想される方向に向かうことを示す語である。

<分類②>

用例(13)制服を着ているだけに余計に目立つ。(半藤1989)

(14)試験の前だけに、かぜをひかないように気をつけてください。(『基本語用例辞典』)

(15)～中共側がこのような人物に協力を求めたことは初めてであるだけに特に注目される。(『現代語の助詞助動詞』)

(16)道路が混雑しているこのごろだけに、コースの選び方や隊列の組み方など事前の準備が大切です。(三枝1991)

(17)予想しなかつただけに喜びは大きかった。(『助詞助動詞詳説』)

(18)まさか新人で出られるなんて思ってもいなかつただけに、誇らしい気持ちでいっぱいでした。(週刊朝日 1995 3/10 号)

(19)九年目の中日・山崎が、3打席連続本塁打を放った。昨秋に左手首を手術。このキャンプは二軍スタートだっただけに、「早く結果が出てよかった」。(朝日・1995 2/26) (筆者注：「」内は選手の談話部分)

(20)ふだんは静かな町だけに、祭りの日のにぎわいは心に残る。

上の用例は(ア)(13)～(16)、(イ)(17)～(20)の二つに分けられる。

(ア)では、AがBという事柄を補足する内容やBを強化するある状況を示している。例えば(13)は、ただでさえ目立つのに、制服であることで一層目立つことを示し、(14)は、普段でもかぜには気をつけてほしいが、試験の前には特に、という強調になっている。(15)(16)も同様である。

(イ)では、AとBが対照的な内容になっている。(17)(18)は、予想しなかつたという事実(=A)と、予想外の出来事(=B)が、(19)では、「二軍スタートだった」というマイナスの内容(=A)と「早く結果が出てよかった」というプラスの内容(=B)が対比され、それぞれBの気持ちが強調される。同じく(20)は、「静かな町」(=A)と、「祭りの日のにぎわい」(=B)を対比させることでBを強調している。

(ア)(イ)ともに、Aがなくても成立する事柄BがAによりさらに強められるので、「Aだから当然一層Bになる」と言うこともできる。例えば(14)は、

試験の前だから当然一層かぜをひかないように気をつけてほしいのであり、(17)は、予期しなかったから当然一層喜びが大きいのである。AとBの結び付きは、予想外のものではなく、Aだから当然Bが強められるという点で、分類①と同じく「当然の成り行き」であると考えてよい。当然の成り行きであるために、A Bの結び付きは、聞き手にも十分了解してもらえることになる。

分類②は、文中で“一層”の意味を強める「よけいに」「とくに」などの語が伴われることがある。

<分類③>

用例(21)ことに自分が大阪者だけに、大阪人を非常にいやがったもんや。

(森田1989)

(22)話し方が穏やかなだけに、かえって威圧感があった。(『大辞林』)

(23)日頃丈夫なだけに病気になるると心細くなるらしい。

(24)一人でなんでも出来るだけにかえって心配だ。

分類③はAとBの結び付きが分類①②とは異なっている。分類①②において、BがAの当然の帰結、当然の成り行きだったのに対し、分類③では、A Bが「当然」という結び付きではない。BはAから予想されるものとは異なり、「AならばBになるのは当然だろう」という筋道にはならない。

(21)は、「大阪者」であれば通常は同郷人に親しみを抱くと思われるが、その予想に反し、「大阪人を非常にいやがった」となっている。(22)は、「話し方が穏やか」ならば、通常は接しやすい雰囲気であると思われるのに、「威圧感がある」という予想外の内容になっている。(23)(24)も同様で、当然こうなるだろうという筋道を外れた内容がBにくる。これらは、AとBに対照的な内容がくるという点で先の分類②の(イ)に似ているが、分類②(イ)は、「Aだから当然一層B」というつながりになっており、BはAの当然の成り行きと言える。これに対し分類③は、AとBの結び付きに意外性があり、分類②(イ)とは異なっている。ただし、分類③の予想外の結び付きの場合も、聞き手の側に、「確かに、そういう場合はかえってそうなるだろう」という多少ひねった了解が成立していると考えられる。分類①②と同様、一般常識の枠組みから大きく外れることはなく、「ああ、なるほどそういうものだろう」という聞き手の了解を得られる範囲にあると言える。

分類③の場合は、文中に予想外の状況を表す「かえって」という語を伴うこともある。

森田良行氏は「だけに」には「身分・事情・能力に相応して」という意味があると指摘しているが（森田1972）、分類①②はすべてBがAに応じた内容になっており、その内容に見合った「程度」の事柄がくる。また分類③も、Aという内容に見合う「程度」にBという逆の内容が強められるので、「だけに」には、「だけ」の「程度」の意味が反映していると考えられる²⁴。

2. ばかりに

2-1. 従来の研究及び辞書の記述に見られる意味・用法

『日本文法大辞典』では、

「ばかりに」の形で、「それだけが原因（理由）で」（事態の悪化を示すような結果の導かれることが多い）

と説明されている。『基本語用例辞典』に「それだけが原因で、物事が悪い状態になることを表す」とあるように、後件に来る事柄を「悪い状態」と限定しているものもあれば、『現代語の助詞・助動詞』に「『ただそれだけのことが原因となって』の意」とあるように、後件に来る事柄に触れないものもあるが、すべて上記の『日本文法大辞典』の記述に収まると見てよい。

2-2. 「ばかりに」の意味・用法

「ばかりに」を挟んで前件をA、後件をBとすると、上記の記述に照らして、Bの内容が「事態の悪化を示す」かどうかで2つに分類できる。

[AばかりにB]

- ①他ならぬAが原因で、Bというマイナスの結果になる。
- ②他ならぬAが原因で、Bという中立またはプラスの結果になる。

以下、用例とともに詳しく見ていく。

<分類①>

用例(1) ちょっとゆだんをしたばかりに、大事故を起こしてしまった。（

『助詞助動詞詳説』)

- (2) あなたが大声を出したばかりに、子どもが泣き出してしまった。
(『基本語用例辞典』)
- (3) 忙しさにかまけて病院に行かなかったばかりに、風邪をこじらせてしまった。(杉本1992)
- (4) お前が来たばかりにせっかくの苦心も水の泡だ。(奥津1986)
- (5) 金がないばかりに、今度の旅行には行かれない。(『基本語用例辞典』)
- (6) ここは××銀座と言われるばかりに、品物も高級品を扱わなければならず資本もかかるし、なかなか大変です。(池尾1967)
- (7) 自分がやりたいばかりにわざとあんなことをいったんだろう。
- (8) その子は頭がいいばかりに、他の子からはあまりよく思われていないようだ。(池尾1967)

(1)～(4)のように「…たばかり」の形になることが多く、「AでなければBでなかったのに」という取り返しのつかない気持ち、「後悔」「落胆」「非難」「遺憾」などを表す。(5)～(8)のように「た」を伴わず、ある状況を示すものもあり、同じく「遺憾」「非難」「ぐち」「あきらめ」などの感情を表す。Bはこのようにすべてマイナスの結果を表している。Aの事柄についてプラス[+]かマイナス[-]かを見てみると、(1)(2)(3)(5)は[-]の事柄(「ゆだんをした」「教えてやらなかった」等)、(4)(7)は[+]とも[-]とも言えない中立[△]の事柄(「お前が来た」「自分がやりたい」)、(6)(8)は[+]の事柄(「××銀座と言われる」「その子は頭がいい」)となっている。ABの組み合わせは、[-]と[-]、[△]と[-]、[+]と[-]の3通りあり、[-]の結果をもたらす原因Aにさまざまな内容がくる。Aがマイナスの場合には、当然の原因結果として結び付けられるが、中立またはプラスの場合は時に予想外のつながりとなる。Bという結果の原因にAを持ってくるのはあくまで話し手の主観によるものと言える。

<分類②>

- 用例(9) 此処にやすんでいらっしゃるのをお見かけいたしましたばかりになるほどこれは恰好な場所だと気がつきました(森田1989)

- (10)早く終わらせたいばかりに猛スピードで作業した。
 (11)もう少しそばにいてほしいばかりに次から次へと話し続けた。
 (12)あの人は外国で育ったばかりに英語がペラペラでうらやましい。
 (13)いい人間だと思わせたいばかりに親切にしているに違いない。

(9)は、休んでいるのを「見かけた」ために「恰好な場所」に気がついたことを、話し手は感謝の気持ちで話しており²⁵、Bは明らかにプラスの事柄である。(10)も「猛スピードで作業した」ことはプラスの事柄と考えてよいだろう。(11)の「次から次へと話し続けた」ことは状況にもよるが、マイナスの事柄とは断定しにくい。

(12)(13)は上の例とやや異なる。(12)は「英語がペラペラ」であること自体はプラスの事柄だが、文全体としては話し手のねたみ・やっかみなどマイナスの気持ちが表れている場合が想定でき、(13)も「親切にしている」こと自体はプラスの事柄だが、文全体としては話し手の非難が表れている。文全体はマイナスになるが、B自体はマイナスの事柄ではないので、分類②に含めた。ABの結び付きは、当然のものもあれば恣意的なものもあり、やはり話し手の主観に基づいている。

分類①②ともに、AでなければBは起こり得なかったと話し手が判断している点で、AはBの絶対的・唯一の原因となる。「ばかりに」は原因理由の「限定」を示す働きがあると言える。

3. 「だけに」と「ばかりに」

三枝令子氏は、「だけに」には「P₁ P₂ P₃ といういろいろな場面の可能性の中からひとつのPを、Qという判断もしくは状況の成立に特に関係あるものとして取り立てる」という「基本的な働き」があると大きくとらえている

(三枝1991)。「ばかりに」が、原因理由の限定である(AはBの絶対的・唯一の原因理由となる)のに対し、「だけに」は三枝氏の指摘するようにいくつかの要素から一つを取り立てる働きをするのであって、Aは絶対的・唯一の原因・理由ではない。「だけに」は「だけ」の<限定>の意味を表すのではなく、その程度にに応じているという<程度>の意味を表し、Aを持ってくることで、Bを強調する働きをしていると言える。

また、前件Aと後件Bを結び付ける際に、「だけに」は、一般常識の範囲内で聞き手の了解が得られること、つまり、聞き手の共感が得られることに基づいており、「ばかりに」はあくまで話し手の主観に基づいていることが見て取れる。

4. まとめ

以上の分類と分析をまとめると次のようになる。

[AだけにB]

分類①・BはAの当然の結果・成り行きを示す。また、Bなのは当然Aだからだという裏付けをする。

- ・「…だからさすがに」「…だからやはり」と置き換え可。

- ・文中に「さすがに」を伴うことがある。

(ア)・A Bの結び付きの背景に世間一般の常識・通念がある。

- ・「NがNだけに」の形で、「こういうAのときにBになるのはやむを得ない」という、話し手と聞き手の共通理解が前提となる。

(イ)・A Bを結び付けるのは話し手の常識（一般常識の枠内）に基づく。

(ウ)・Aがある事柄の妨げとなり、Bという結果を導いてしまう。

- ・A Bを結び付けるのは話し手の常識（一般常識の枠内）に基づく。

分類②・BはAの当然の結果・成り行き。BはAがなくても成立するがAにより強められる。

- ・「…だからいっそう」と置き換え可。

- ・文中に「よけいに」「とくに」を伴うことがある。

- ・A Bの結び付きに聞き手の了解が想定できる。

(ア)・AはBを補足・強化する内容・状況

(イ)・AとBは対照的な内容

分類③・BはAの予想外の結果・成り行き

- ・「…だからかえって」と置き換え可。

- ・文中に「かえって」を伴うことがある。

- ・聞き手の側に「確かにそうなり得るだろう」という了解がある。

[AばかりにB]

分類①・他ならぬAが原因で、Bというマイナスの結果になる。

分類②・他ならぬAが原因で、Bという中立またはプラスの結果になる。

・①②ともに、A Bを結び付けるのは、話し手の主観。

「だけに」「ばかりに」の相違

・「だけに」は「だけ」の<程度>の意味を表し、「ばかりに」は、原因理由の<限定>となる。

・前件Aと後件Bの結び付きは、「だけに」は聞き手の共感に、「ばかりに」は話し手の主観に基づいている。

おわりに

「だけに」「ばかりに」の意味・用法について、前件Aと後件Bの結び付きから細かく分析し、分類を試みた。用例が十分集められなかったこともあり、分類から漏れているものもあるかと思われるが、手元にある用例はすべて検討して分類した。意味・用法の分析に焦点を当てたため、前件・後件（従属句と主文）の特徴や、「だけあって」「から」「ので」など類義の語句との比較等までは検討が及ばなかったことが反省される。

「だけに」「ばかりに」に限らず、接続助詞ではないものが接続助詞的に用いられる例は多い。今後もそれらの語句の詳しい分析を試みていきたい。

以上

<注>

注1 『助詞助動詞詳説』『日本文法大辞典』久野1983等に記述されている。

注2 三枝令子氏は「だけにの分析」（三枝1991）で、主文と従属句の文的特点、**「から・ので」との違いなどを詳しく考察しているが、「だけに」の意味用法については細かい分析はない。**

注3 池尾スミ氏が「Aは社会一般が下している判断や評価、Bはそれに伴い当然あるべきと期待されること、類推の裏付けとなる現実の具体的事実」と指摘している（池尾1967）。また、寺村秀夫氏も「『XがPなら、YがQなのは当然だ』と論理的な筋道で聞き手を納得させようとする」「その『論理』というのは、つまり社会的な常識ということである」と指摘している（寺村1991）。

注4 奥津1986に「程度」の意味であることが指摘されている。

注5 これは『蘆刈』（谷崎潤一郎）の一節で、以下原典では「…気がつきましたやうなわけでひとへにあなたさまのおかげでござります、…」と続く。

<引用文献・参考文献>

- 阿部健二1976「活用語を承ける『ばかり』」『人文科学研究』（新潟大）50
池尾スミ1967「<…とみえて><…だけあって>-2つの表現の型をめぐって」
『日本語教育』10
奥津敬一郎1986『いわゆる日本語助詞の研究』（第一章 形式副詞）凡人社
久野肇 1983『新日本文法研究』大修館書店
国立国語研究所1964『現代語の助詞・助動詞（四版）』秀英出版（初版1951）
三枝令子1991「『だけに』の分析」『言語文化』（一橋大語学研究室）27
杉本和之1992「『ばかり』と『だけ』」『中京国文学』11
高橋太郎1978「よこの限定の<だけ>のたての構文機能へのかかわり」『郡女
国文』（群馬女子短大）7
陳連冬 1992「『だけ』と『ばかり』について—個限定と類限定の観点—」
『青山語文』22
寺村秀夫1991『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
沼田善子1986『いわゆる日本語助詞の研究』（第二章 とりたて詞）凡人社
半藤英明1989「現代語『だけ』の用法分類とその周辺」『文学・語学』123
1992「『だけで』文の二義性について」『国学院雑誌』93-7
文化庁 1990『外国人のための基本語用例辞典（第三版）』
松村明編1969『古語類聚 助詞助動詞詳説』学燈社
松村明編1971『日本文法大辞典』明治書院
森田良行1972「『だけ、ばかり』の用法」『早稲田大学語学教育研究所紀要』
10
1989『基礎日本語辞典』角川書店

以上の他、『日本国語大辞典』小学館1975／『大辞林』三省堂1989（第六刷）
『広辞苑』岩波書店1991（第四版）など国語辞典類を参照した。

（埼玉短期大学 講師）